



ENGINEER® の MPDP ダイアリー



高崎 充弘

第5回 MPDP 理論の実践：ムッシュ・マグニの場合 ④

[Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP 理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

ウ：しかし、名前を決めるにもドラマがあんねんな。

いつもどのタイミングで商品名を考えるんでっか？

高：新製品のコンセプトに沿って最初からアレコレ考えるけど、それはあくまで仮の名前。開発が進んで詳細が見えてきた段階（だいたい、7合目あたり）で、真剣にネーミングを考え始めるんだ。

ウ：確かに赤ちゃんの名前でも、4～5カ月目で性別が分かってからのほうが、本気で考えまんな。

ところで、Monsieur Magniの「ヒゲのオッチャン」はどうやって生まれましたん？

高：あれはムッシュ・マグニが商標登録されて数カ月経ったところ……。本体と収納ケースの量産試作が完成し、開発プロセスもいよいよ9合目にきてパッケージデザインに取りかかることとなり、私を含む企画開発のメンバーで「ミニ文殊」を行ったんだ。

ウ：えっ、ミニもんじゃ？ お好み焼きでっか？

高：そう、ビール片手に……って何でやねん！ 「3人寄れば文殊の知恵」っていうように、当社では現場で何か問題があると、関係メンバーが集まって意見を出し合う「ミニ文殊」が活発に行われているんだ。

ウ：面白そうやね。いっぺん参加してみたいわ～。

高：パッケージのミニ文殊では意見が大きく分かれた。本体を折り畳んで収納したほうが、店頭でもスペースを取らないし、コンパクトさをアピールできるというのが一つの意見。

ウ：なるほど。小さいパッケージなら、携帯に便利ということがお客さんにストレートに伝わりまんな。

高：しかし、レンズ部分まで隠れてしまい、コンパクト過ぎて何の商品か分からなくなる。レンズは折り畳まず出しておくべきだというのがもう一方の意見。

ウ：確かにそれも一理あるわ。スイスのアーミーナイフでも完全に折り畳んでしまったら、どんな機能があるか分かりまへんがな。

高：^{かんかんがくがく}侃々諤々の議論の末、メンバーの一人が「レンズを立てるとヒトの形に見えませんか～」とつぶやいた。しばしの沈黙の後、「確かに帽子に手を当てて挨拶してる！」「この人がムッシュ・マグニだね！」。

ウ：ヒゲのオッチャン誕生の瞬間やね。なんか感動的！

高：前号でも話したように「ムッシュ・マグニ⇔虫眼鏡」という語感の面白さから命名したんだけど、ルーペ本体をオジサンに見立てるとは全く予想していなかった。自分でもビックリしたよ。

ウ：ところで、オッチャンは何でヒゲ生やしてますの？

高：ムッシュ・マグニのキャラクターをいろいろ考えたら、ちょうどドンピシャの人物がいたんだ。

ウ：あっ、分かった！ 社長はんでっしやる？

高：そうそう、帽子は必需品やし……って何でやねん！ 名探偵エルキュール・ポワロだよ。フランス語を話すし、虫眼鏡も頻繁に使う、ボルサリーノを被ってる、あとはヒゲだけ……。

ウ：それで両端が上を向いたポワロヒゲなんか～。

高：このミニ文殊の後、ムッシュ・マグニのアイコンも制作し、本体を伸ばした状態でのパッケージが完成したんだ（次号に続く）。